

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	株式会社 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	宇和島市柿原甲138番地1
自己評価作成日	平成27年3月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

柿畑のある静かな住宅地にあり、窓からは自然の景色を見ながら、のんびりと暮らしています。利用者さんの出来る事や、役割に目を向けながら、生き生きとはりのある生活を送っています。家庭的な雰囲気やを大事にし、安心して過せるホームを目ざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●前回の評価実施後、「利用者の楽しみや自信につながる支援」を目標に挙げて取り組まれた。利用者の力量や得意なことを踏まえて、洗濯物たたみやトイレ等で使用する新聞を折る作業、又、車いすを使用する方は廊下の手すり拭き等「他の人の役に立つこと」等を行えるよう支援されている。
●事業所では、利用者の安全等を考えて、お正月に餅を食べることは控えているが、利用者は餅がお好きなことを踏まえて、南予地方に昔から馴染みのある「芋のもち」を皆で作って食べることを試してみられた。利用者は、作る過程等も慣れておられ、中には「正月より、旧正月の方が大事だった」等、餅に関するお話も広がったようだ。芋のモチは、利用者にとって食べやすいことがわかり、今後も安全等にも配慮しながら支援していきたいと話していた。幼稚園から園児が来てくれて交流する取り組みを続けており、一緒に歌ったり、手遊び等の遊びを通してふれ合っている。園児は、利用者の名前を覚えてくれており、名前で呼んでくれるような場面も見られるようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム柿の里

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

前田 祐子

評価完了日

27年 3月 7日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			1階、2階に理念を掲示し職員によく把握できるようにし、新人スタッフにも理念をきちんと伝え実践につなげている	
			(外部評価)	
			「いつも笑顔で 生き生きと 自分らしく」と事業所理念をつくっており、目標も立てて取り組みをすすめておられる。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			自治会に加入しており、地域行事にできる限り参加したいと考えている。自治会の清掃は毎年参加している。今年度は、校区の敬老会に出席させてもらった。ホームの行事（柿の里まつり）では、近隣住民や他施設の方へお声を掛け、たくさんの方に参加して楽しんでもらえた。	
			(外部評価)	
			事業所は前年度、自治会の班長を務められ、利用者と広報誌を配る等されて、事業所の知名度が高まったことを感じておられた。年一度、地域の掃除の日には事業所の周辺を掃除しており、利用者も草引き等して参加できるよう支援している。秋に行う「柿の里まつり」には、焼きそば等を手作りしており、近くの団地の方も買いに来られる。近隣の幼稚園から、卒園式に飾る紙花作りの依頼があり、利用者と職員で作って届けている。	事業所職員3名は 認知症サポーター養成講座の講師役ができることもあり、今後は、地域の方達の認知症の理解や協力を得られるよう、講座開催を考えておられた。又、認知症カフェ活動等、事業所の特長や持っている力を活かした活動も考えておられた。運営推進会議等も活かして、地域の方達と相談しながら取り組みをすすめていかれてほしい。
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			キャラバンメイトのサポーターとして、認知症の方への理解を深めてもらうため「認知症サポーター要請講座」を施設内で実施できるように計画している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			各ユニットの主任に現状報告をしてもらい、介護現場で困難に感じている事があれば、出席者に相談しアドバイスをいただき、サービスの向上に努めている。利用者さんの家族の出席を昨年度より多くなり家族の意見も聞くことができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(外部評価)	
			会議には、ご家族や自治会長、近隣住民、他事業所職員、幼稚園の先生も参加されている。会議を「外部者との意見交換の場」と捉え、事業所から活動や現状報告を行った後、他事業所の取り組み等も聞きながら、意見交換されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			図書の出し出しの利用では、利用者さんの興味ありそうな図書を選んで、配達してもらっている。市役所には分からないことがあれば相談している。又保護課の担当者の方とは、状況を伝えながら、生活保護の方を支援している。	
			(外部評価)	
			市主催の「家族の集い」には、ご家族1名とケアマネジャーで参加して、運営推進会議時にその内容を報告をされた。成年後見制度を利用する方が入居することをきっかけに、次回の運営推進会議時には、制度について市の担当者に説明してもらうことになっている。介護相談員の訪問が、2か月に1回ある。	
			(自己評価)	
			身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、リスクのある利用者に対しては家族との話し合いで車椅子に安全ベルトを使用させてもらっている。状況が落ち着いていれば、外して歩行訓練を行うなどして気をつけて対応している。就寝時、転倒防止の為にベッド柵を使用する方もいる。居室にセンサーを設置し早めに訪室する事で介助、見守りをし事故防止に努めている。	
			(外部評価)	
			ベッドからずり降りて自室のトイレに行こうとする方には、ベッドをトイレの近くに移動したり、ベッド足元に滑り止めマットを敷いたり、足元にセンサーを付け分かるようにし、安全に過ごせるよう工夫されている。夜間は、「寝返りが多いため」現在は、ベッド柵を使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員に虐待について、資料配布などで意識づけをしているが、新人職員にもどういう事が虐待にあたるかを学ぶ機会をもち虐待防止について周知徹底できるようにしていく。 職員のストレス防止にも気をつけ、スタッフ同士で声掛けをし助け合いカバーしながら、ケアしている。日々のケアで気がついた事はその都度伝えるようにして意識づけを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 1名利用されている方の入所があり実際活用されている状況を伝える事で、制度をスタッフに理解してもらうきっかけが出来た。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時は書類も多く全ての内容の理解が得られてない事も考えられ、救急時の対応や延命について等重要な事項については面会時や体調不良時等に再確認をさせてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時は、必ずスタッフが声掛けをし要望等を聞くよう心がけている又電話をかける時にもご意見を聞くように努めている。利用者さんにはホームでの暮らしの思い聞きながら支援に努めている。 (外部評価) 2か月ごとに発行する事業所便りに、エピソード等を書いたお手紙を添えてご家族に送付している。外出行事等にはご家族も誘われ、2～3名の参加がある。利用者によっては、外出先からご家族と自宅に戻り、泊まる方もある。秋に開催する「柿の里まつり」には、ご家族も多く参加されており、利用者と一緒に歌ったりゲームして楽しめるよう企画されている。	ご家族への電話や手紙には、近くに来られた際には、立ち寄ってもらえるようメッセージを書いているが、職員は、「入居後、落ち着いて来られるとご家族の足が遠のいてくる」ことを感じておられる。管理者は今後「家族が集まるような機会を持ちたい」と考えておられた。「柿の里まつりに合わせて行ってみたい」と話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフからのベランダがあればもっと気軽に外に出て行けるとの要望もあり計画をすすめている。	
			(外部評価)	
		ユニット会議や連絡ノート等、職員で情報共有する仕組みが複数あり、職員で気付き等を出し合いながら取り組みをすすめている。職員は、数年前から「1階にはテラスを、2階にはベランダがあると、利用者が外気にふれる機会が増える」と法人に提案しており、現在、設置に向けて計画が進んでいた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			普段から職員の要望や意見を聞きとり、希望を聞きながらシフト作りをし有給休暇もとれるようにしている。仕事にやりがいがあるように、職員のストレス防止にも目を向けている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修は勤務時間で参加できるよう配慮し参加出来やすくしている。研修参加者には職員会議で研修内容を発表してもらっている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			連絡会や交流会には出来る限り参加し、推進会議にも行かせてもらっている。相互研修にも参加し他施設の良い所を参考にさせてもらってサービスの質を向上させている。	
			(外部評価)	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前の面接時や関わりの開始時に現場の主任やスタッフが一緒に行き利用者さんの状況把握し関係作りを大事にしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所されている方がどのような環境で生活されているか施設見学をして頂いたり、ご本人や家族の思いや要望を受け止め、話しやすい環境づくり傾聴に心掛けています。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) それぞれの立場で、ご本人や家族の話をよく聞き生活状況を詳しく知る事が、その方の支援につながり、良いサービスに繋がると考えています。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の料理や過ごし方の知恵を教えてもらう事もある。干し大根、干し柿、芋もちなどを一緒に作り楽しい時間を過ごした。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 体調不良時等、応援面会に来て下さる方もいる。又、入所された事でご家族に精神的余裕も出来て、月1～2回自宅へ外泊され家族の絆を深められている方もある。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの美容室に行くのを楽しみにされている方は継続して行かれるよう予定をいれている。買い物で日用品を自分で購入したい方は今まで行っていた店へお連れして店員さんとの会話を楽しんでおられる。 (外部評価) 事業所では、利用者の安全等を考えて、お正月に餅を食べることは控えているが、利用者は餅がお好きなことを踏まえて、南予地方に昔から馴染みのある「芋のもち」を皆で作って食べることを試してみられた。利用者は、作る過程等も慣れておられ、中には「正月より、旧正月の方が大事だった」等、餅に関するお話も広がったようだ。芋のモチは、利用者にとって食べやすいことがわかり、今後も安全等にも配慮しながら支援していきたいと話していた。幼稚園から園児が来てくれて交流する取り組みを続けており、一緒に歌ったり、手遊び等の遊びを通してふれ合っている。園児は、利用者の名前を覚えてくれており、名前で呼んでくれるような場面も見られるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者に声を掛け楽しそうに談話されたり、お世話をされる場面がみられる。利用者同士のトラブルにならないよう職員が間に入り、言葉のかけ橋になってコミュニケーションをとっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も連携室にご家族の今後の生活の不安等お伝えして、連携室から連絡をもらったり、ご家族から状況を報告して頂くこともある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話が困難な方もおられるが、表情や体調など様子の変化には特に気をつけている。利用者とのコミュニケーションをとりながら本人の希望することや思いを把握し出来る限り希望に添えるように努めている。 (外部評価) 職員は日々の中で知り得た利用者の情報を、日々の介護記録や気づきノートに記入して、情報共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 最初の面接時の情報や家族からの聞きとりの重要性を感じている。又日々の入所後の暮らしから得られる情報、会話からの気づきや面会時に家族から教えてもらいながら、把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや状況観察をし生活パターンや状態の把握に努めている。リビングで皆と過ごす時間には楽しいレクリエーションの提供を心掛けている。体調に合わせて部屋で過ごしてもらうよう声かけする事もある。高齢の方が多く、体調悪化の危険が高い為、少しの変化にも気をつけるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の来所時のタイミングに合わせて話し合いが出来るようにしている。職員にはプランに目を通してもらい具体的ケア等、意見を聞きながら計画を立てている。入所の方がいる時は1、2F合同職員会議で入所者の方の状況プランを伝え、職員全員に協力してもらるようにしている。	
			(外部評価) 前回の評価実施後、「利用者の楽しみや自信につながる支援」を目標に挙げて取り組まれた。利用者の力量や得意なことを踏まえて、洗濯物たたみやトイレ等で使用する新聞を折る作業、又、車いすを使用する方は廊下の手すり拭き等「他の人の役に立つこと」等を行えるよう支援されている。今後さらに、ご家族の協力を得たり、地域資源等も十分に活用して、利用者の暮らしが広がるような介護計画を工夫されてはどうか。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りを重要視し状況の把握と連絡ノートの活用をしている。日々の生活で出来る事、いつもと違った事などその都度話し合い、ケアマネ職員間で情報の共有を行いケアの実践につなげている。事務長、施設長も情報の共有、状況の把握に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 既存のサービスに捉われないよう何が出来るかこれからの課題としたい。公民館や集会所の利用や当ホームを利用時のサロンの交流等も検討していきたい。昔懐かしい料理やおやつ等を行事の時に食べてもらうようにする等、考え中である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所の花屋、観葉植物園に散歩の途中見学させてもらえるよう話が出来て、散歩コースにして楽しませてられている。公民館の活動の朝顔展出品やカラオケ、フラダンス、保育園児との交流、ボランティアの方々の協力を得ながら楽しい暮らしの支援に努めたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 総合病院受診後も連携室へ紹介状を書いてもらいス ムズな継続受診が出来ている。	
			(外部評価) ご家族が受診に付き添う際には、食事量や健康状態の 記録のコピーを持参してもらう等している。総合病院 の医療連携室と連携して、適切な専門医等を受診でき るよう支援されている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の関わりで変化や不安な事があれば報告、連絡、 相談をし、適切な受診や看護をうける事が出来てい る。 朝の申し送り時は、看護師も出席して状態把握に努め ている。何か変化があれば、24時間体制で対応し、相 談を受け、連携医とも連絡を取り、指示を受け、受診 等の対応をしている。	
			(外部評価) 入院時に生活歴等要約を持参し情報交換を行ってい る。安心して入院生活ができるよう家族への連絡や病 院関係者との関係作りにも協力し、面会にも再々足を 運んでいる。連携室とこまめに情報交換する事で退院 後の本人、家族の不安軽減に努めている。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 救急搬送について、延命についても具体的に希望を聞 き、家族が記入した用紙をお預かりしている。	
			(外部評価) 入居時に看取りに関して説明を行い、同意書を取って いるが、利用者の状態や時期をみて、延命治療の有 無等、希望や意向を自筆等でいただくようにしてい る。事業所で看取の場合は夜間時の対応に難しさがあ るため、ご家族にも協力いただけるようお願いして いる。終末期は、支援計画を立て共有しながら取り 組む仕組みがある。さらに、重度化や看取りにつ いては、利用者の気持ちや希望等についても知る機 会を作してほしい。ご家族と共有しながら支援につ いて話し合ってもらいたい。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 救急搬送について、延命についても具体的に希望を聞 き、家族が記入した用紙をお預かりしている。	
			(外部評価) 入居時に看取りに関して説明を行い、同意書を取って いるが、利用者の状態や時期をみて、延命治療の有 無等、希望や意向を自筆等でいただくようにしてい る。事業所で看取の場合は夜間時の対応に難しさがあ るため、ご家族にも協力いただけるようお願いして いる。終末期は、支援計画を立て共有しながら取り 組む仕組みがある。さらに、重度化や看取りにつ いては、利用者の気持ちや希望等についても知る機 会を作してほしい。ご家族と共有しながら支援につ いて話し合ってもらいたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 誤嚥性肺炎や飲み込み不良の方などの見守りや早めの変化に気付いた事で、大事に至らなかったケースもあり。嚥下機能低下している方が多くなり食前に口腔体操を取り入れ、日々慎重なケアを心掛けている。緊急時対応マニュアル作成しておりスタッフがいつでも見れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時マニュアル作成し訓練を予定している。敷地内に倉庫を建て備蓄品を揃えている。 (外部評価) 公民館でAEDの講習会がある際には、新人職員が参加して地域の方と一緒に習っている。伊方原発事故発生時には、宇和町のグループホームを受け入れることになっており、運営推進会議等で交流されている。敷地内に新たに倉庫を設置して、水やラメン・コンロ等を2日分程度備蓄している。今後、4月には消防署の方にも協力を得て地震を想定した避難訓練を行う予定となっている。今後は地域の防災訓練等にも参加して、さらに地域との協力体制を作っていかれてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 気持ちを受け止めるよう、否定せず受け入れる事を心掛けている。具体的な声の掛け方、対応について職員で話し合いながら行っている。声の大きさ、言葉遣い、態度等に気を付ける様にしているが、妄想や不穏時があった時は、その都度、職員間で話し合いながら、利用者の不安や気持ちを受け止め声掛けや対応をおこなっている。 (外部評価) 現在、男性利用者が1名おられる。男性職員も1名おり、勤務する際には一緒に花札をしたり、好きな植物等を見ながら山を散歩できるよう支援している。又、女性利用者のお話の聞き役になってくださったり、夜勤する職員には「何かあったら言って来いよ」と言ってくれるようで、職員は「頼りにしています」と話しておられた。管理者は、職員の声の大きさやトーンが気になる時には、その都度指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をしましょうか？どちらにしましょうか？等聞くようにし自己決定出来ない方はこちらから助言する事もあり自己決定しやすい声掛けをするなど気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) テレビやラジオを楽しみにしている方、散歩に再々出たい方別ユニットに行き、顔見知りになった利用者と談話される方、畳コーナーで休まれる方、外に出たい方は一緒に洗濯物を干したりと、その人のペースも大事にしているが、体調悪化につながらないよう生活のリズムには配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時は、好みの洋服に着替えたりして楽しく外出してもらえよう支援している。髪のカットの時にどのような髪にするか会話しながらカットしている。男性利用者の髭剃りはこまめな声掛けをし、気持ち良く過してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お正月には毎年、おせち料理を楽しみにされており手作りしている。料理は見た目でおいしそうと意識してもらおう事も大事にしている。食事介助をしながらつぶす場合もあり、体調に応じてミキサー食、つぶし食の方もおられる。苦手なメニューがある方は、食べてもらえるメニューにして出す事もあり。 (外部評価) 入居日には、ご家族も一緒に食事ができるよう赤飯やお寿司等を用意されている。施設長が食材の買い物に行く際には、利用者に声をかけて一緒に出かけられるよう支援している。台所は居間からよく見える場所にあり、調理の様子や匂い等も感じられる。職員も一緒に席に着いて同じものを食べながら介助等をされていた。利用者によっては、白ごはんを認識しやすいようお茶碗の色を替えたり、ふりかけをかける等されていた。又、個々の状態に合わせて、柔らかさや形態を替えて支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事摂取量チェックをしない時は体調には十分気を配っている。水分をこまめに摂取できるよう声掛けやペットボトルにお茶を入れ、渡して飲んでもらっている人もある。なかなか水分を取らない方は汁物で補ったり、再々声掛けやタイミングをみて飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 舌に癌のある方もおられリビング等で一緒に過す時に、臭いが気にならないよう配慮しうがいを再々行うなどして、口腔ケアに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレのリズムの把握の為チェック表の利用もしている。紙パンツ、パットの使用はしているが、利用者のサインやリズムを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。トイレでのパット交換も自分で行えるよう工夫している方もいる。	
			(外部評価) 以前、個室トイレの扉を開けて出られないような利用者があったことがあり、現在2階の個室トイレは扉を外して、2重カーテンにしている。カーテンは、一枚は右から、もう一枚は左から開くようにしており、他の方がカーテンを開けてもすぐには中が見えないよう工夫している。職員もそのトイレを利用している。もう一つの広めのトイレには便器の前方にテーブルを手作りしており、利用者が移動や立ち上がり時に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分、食事、運動など気をつけているが運動不足になりがちで便秘傾向の方がおり、服薬コントロールしている人もいる。食べ物ではバナナや乳酸菌飲料などで様子みる方もある。タイミングをみてトイレ誘導する事で排便できる事もあり、日々の状態観察には気を配っている。薬のコントロール、便秘、下痢症状に注意して支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 脱衣場、風呂場の温度差には気をつけている浴槽に入れない利用者さんには足浴をし、冷めないよう肩にタオルをかけ温度に気をつけ温まってもらえるようにしている。	
			(外部評価) 浴室には、一般家庭のような浴槽が設置されており、利用者個々に2～3日に1回入浴できるよう支援している。シャンプーハット等も用意してあった。利用者が清潔な浴室で入浴できるよう毎日、除菌や掃除を行っている。職員は、相互研修で他事業所の支援を知る機会があり、入浴の頻度等を参考にしていた。入居間もない女性利用者の入浴介助を男性職員が行う場合「男性に介助されるのは初めて」と言われる方もあるようだが、男性職員が「三助さんですよ」と言われると、利用者も納得して任されるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 足の冷たい人は、アンカを使用し暖かくなって嬉しいと喜んでおられる方もいる。日中の活動時間を増やす事で、夜間睡眠できるようリズムを作れるようにしている。眠れない方は夜勤者のそばで休んだり、安心できる環境作りにも努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬箱の工夫と薬の説明書はいつでも確認できるよう、内服チェック表がある。新しく処方になったり、変更のある時は申し送り、連絡ノートを活用し確実な服薬に努めている。	
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 新聞折りや洗濯物たたみを自分の仕事してされる方や、歌の好きな方は、なじみのある音楽を聴いてすごしたり、違う階に行って他利用者さんと談話されたり楽しくすごされている。	
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとに花見に出かけたりドライブに出かけ、外食を楽しんでいる。家族の方と食事に出かけたり、外泊される方もいる。 (外部評価) 週に3回程度の食材の買い物に行く日には、「帰りたい」気持ちが強い方を特に誘って、一緒に出かけられるよう支援しており、徐々に気持ちが落ち着いたという事例がある。又、職員が事務的な用事で外出する際にも誘って外出する機会を作っている。排泄用品等、個人の買い物は職員と1対1で出かけるように支援している。月に1回は、ユニットごとに外出できるよう計画しており、日々の中で「ハンバーガーが食べたい」等の希望があれば、希望者を募り数名で出かけられるよう支援している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 携帯電話を持っている方もおられ、家族と直接お話をされている方もいる。年賀状を書かれる方や家族からの手紙がくると時々、出して読まれたりされる方もいる。又スタッフが代読させてもらったり、分かりやすい場所に置いて御家族とのつながりを支えている。	
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御家族からの手紙を代読させてもらって分かりやすい場所において御家族との繋がりを支えている。携帯電話を部屋に置き直接お話されている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節ごとに作品を作り、季節感を感じてもらえるように心掛けている。窓から外の景色などを見る方もいる。廊下横には写真を貼り足を止めて見られる方もいる。図書コーナーもありレクレーションで紙芝居をしたり、読み聞かせをしたり、居室に持ち帰り読まれる方もおられる。スタッフが利用者さんの好きそうな本を手元に持っていったりもしている。	
			(外部評価) カメやメダカ、金魚を飼っており、庭には時々近所の猫が遊びに来るようだ。夏場はグリーンカーテンで庭に日陰を作り、食事やお茶を楽しんだり、冬場はひなたぼっこ等される。1階にはお雛様を飾っている。又、2階ユニットの居間の窓からは山々の景色が見えて、季節の変化等も利用者は楽しみのようだ。ユニットによっては、利用者同士の関係性のこともあり、現在はテーブルをテレビが見えるよう横一列に並べ使用していた。就寝時間に寂しい気持ちになる利用者には、職員が居る居間の畳スペースで休んでもらうようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースでは、それぞれ利用者の居場所があり、思い思いにすごしたり、気の合った利用者同士がいつでも、話をしたりできるような席の工夫をしている。テーブル席で談話したり、テレビを見ている方、ソファでゆったりされる方など色々な過ごし方の支援をしている。畳コーナーでは横になって過ごす方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テレビやラジオを持参され、好きな時に利用されている。お位牌を持ってこられ、お供えされたり、家族の写真や好きな動物の写真や、かざり物を置かれ居心地より生活をされている。	
			(外部評価) トイレのある居室も数か所ある。利用者の状態や排泄状況を踏まえ、又、ご家族と相談して居室の移動等を行っている。居室にポータブルトイレを置いている方の中には、昼間はつ立をして見えないようにしているところもあった。利用者の希望を踏まえて、本や紙芝居を図書館から定期的に数冊持って来てくれており、自室で読書する方もいる。お花がお好きな方は職員が用意したお花を飾ったり、植物がお好きな方は自室で観葉植物を育てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 全面バリアフリーで廊下には手すりがあり安全に歩行できるようにしている。トイレのある部屋ではトイレまでの動線を考えベッドの位置を変えている。御家族の伝言を壁に貼り体力低下防止の運動をしている方もいる。	